

# 恵日寺の銅鐘（朝鮮鐘 大平六年九月ノ銘アリ）

分野 歴史

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



寺宝の国重要文化財である  
銅鐘（朝鮮鐘）

（『唐津市の文化財』より）

## ■恵日時の銅鐘（えにちじどうしょう）

唐津市鏡の恵日寺にある銅鐘は、現在日韓合わせて51口といわれる李朝以前の朝鮮鐘の1口である。

朝鮮鐘は朝鮮半島で鑄造された銅鐘で、撞座は単頭の龍頭と蝸と呼ぶ旗挿を結ぶ長軸線上に据えられ十二葉複弁の蓮華文となっています。鐘は総高73.0cm、鐘身57.8cm、口径47.5cmで、2個の撞座の間の草の間に天衣をなびかせ、合掌して跪坐する飛天の菩薩像が一体つつ陽鑄され、袈裟襷はない。

上帯、下帯は十文字と放射線文を表した円文を交互に配した蓮珠文で外圏を飾った華やかな文様である。4ヶ所の乳廓は上下に蓮珠文を配した唐草文で縁取られ、乳座は三重同心円扁平な乳が3列3段9乳植えられます。銘は位牌形で「大平六年丙寅九月日河清郡曲北寺鑿鐘耆軀入重百二十一棟梁僧談白」とある。この大平6年は中国の遼の聖宗の年号で、高麗では顯宗17（1026）年にあたる。

なお、唐津拾風土記によれば、この鐘には削除された追刻銘があったといわれ、最初、五ヶ山天川村勝樂寺に慶安7（1654）年に願主沙弥妙賢によって施入され、慶永年中に鏡村半田常樂寺に移され、その後恵日寺に施入されたともいわれている。

昭和25年8月29日指定  
唐津市鏡字山添（恵日寺）  
工芸品

◎引用・参考文献（出典）

◆『唐津市の文化財』  
（唐津市教育委員会）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)